

読書活動の一環として子どもの人形劇講座

【支援金確定額：180,000円 支援率：49.29%】

記入日：平成25年（2013年）4月16日

■どのような活動をしている団体ですか？

平成6年に地域の人形劇を愛する者が集まり結成したアマチュアの人形劇団がMあんどBです。（現在女性5名、男性1名）

船橋市内の保育園、幼稚園、公民館、アンデルセン公園などで人形劇の上演をしている。それ以外に山形の鶴岡市、寒河江市の図書館に招かれて読書活動の一環としての人形劇上演、国民文化祭への参加、国際人形劇連盟をとおしての海外公演等あわせて年間30ステージほどの人形劇上演、その他 保育の為の人形劇講座、子どもの為の人形劇のワークショップなど依頼または企画し実施する。



ひよこ、あひる、うさぎ「お兄ちゃんって神様みたいだね」  
きつね「神様みたい？ポ〜」

■支援金をどのように活用されましたか？

「読書活動の一環としての子どもの人形劇講座の開催」しました。人形劇講座の内容としては、

- ・脚本—小学校の教科書にでてくる“きつねのおきやくさま”の作者・納富俊朗氏（九州在住、劇団ののはな団長）を講師として依頼する。
- ・子どもたち募集のためのチラシを作成し配布
- ・5月26日、27日 納富俊朗氏、納富祥子氏による講座
- ・6月2日、9日、17日 藤田栄子氏による講座（ボイス・トレーニング、体のレッスンも含む）

いずれも、宮本公民館で午後1時より午後4時まで。

6月24日 ちば県人形劇まつり in ふなばしで上演



脚本の読み合わせ

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

脚本を読み、人形をもち上演することにより、本の内容を深く理解する必要がある、子どもたちにとっては、これからの読書にむきあう気持ちが変わったのではないかと思う。

募集のチラシで集まった異年齢、異地域の子ども・大人がひとつの作品を創りあげる楽しさと同時に協力する必要性を会得する。人形劇は1人でつくるのではなく、お互いにキャッチボールしながらでないとい劇は進行しません。キャッチボールする事により、会話する楽しさを知り、必要性を感じ、他人を理解することができるのです。

■今後の活動の抱負について

次回の募集を期待する声があるので同じような講座を実施したい。

読書活動をよみきかせとか、本の紹介〈ブックトーク〉だけにとどめず、違ったジャンルから本の楽しさを知る入口となる人形劇の上演を、学校、保育園、図書館などで実施できたら、と思います。

集まった子ども達の明るい顔、つきそってきた大人の楽しそうな顔をみると、たくさんの人が協力して作品をつくりあげ上演する機会をこれからも提供する必要性を感じ、地道にこの活動を進めたい。

できあがった作品を機会があれば上演し、船橋のあたらしい文化の誕生！！

■問い合わせ先：会長 佐藤 澄子（さとう すみこ）

TEL：047-424-6479

E-mail：sumiko@sbiz.co.jp